



高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第119号

2013.12.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」  
の名前をつけています。

## もくじ

### お知らせ

- 一 冬期休館について
- 一 情報発信について

### 活動報告

- 一 八幡高原の野鳥観察会
- 一 かんじき作り

### 観察会案内

- 一 冬を生きる動物の生態
- 一 雪原のトレッキング
- 一 早春のトレッキング

## お知らせ

### ●冬期休館についてのお知らせ

11月26日から高原の自然館は冬期休館となりました。休館期間と連絡先は以下の通りです。

冬期休館期間：11月26日～4月24日

冬期の連絡先：

〒731-2323 広島県山県郡北広島町川小田75  
北広島町役場芸北支所2階 高原の自然館研究室

メール：staff@shizenkan.info

電話番号：080-6334-8601

FAX：0826-35-0386

※平日（月～金）の9:00から17:00まで

※年末年始期間の休み：12月28日（土）～1月5日（日）

### ●情報発信についてのお知らせ

高原の自然館で行っている情報発信について案内します。

- ・西中国山地自然史研究会ホームページ：観察会の日程や報告、お知らせを掲載しています。  
<http://npo.shizenkan.info>
- ・西中国山地自然史研究会公式ブログ：日々のお天気や芸北の話題を届けています。  
<http://nishishi.exblog.jp>
- ・Twitter（はらっぱー）：はらっぱーのつぶやきです。  
<https://twitter.com/harappar>
- ・Facebook（はらっぱー）：芸北の草原や、西中国山地自然史研究会の取り組みを紹介しています。  
<https://www.facebook.com/yawatakogen>
- ・Facebook（しんたん）：芸北せどやま再生事業の取り組みを紹介します。  
<https://ja-jp.facebook.com/geihoku.sedoyama>

# 観 察 会 報 告

## ●八幡高原の野鳥観察会

開催日時：2013年11月17日(日) 9:00

講師：上野吉雄

前日までの快晴から一転、雨が降る冷たい気温の中、八幡高原の野鳥観察会が行われました。今回の講師は上野先生です。丘陵、湿原、田園、溜め池と色々な場所を巡りながら鳥類を観察します。

自然館前に19名が集合し、近くにいたオオマシコを観察しました。幸先良くスタートを切り、最初のポイントである、おーいの丘へと向かいました。丘の上では飛行するアトリの群れにホオジロ、ツグミ等の鳴き声を聞きました、丘から戻る途中ではキレンジャクが私達の頭上を通過していきました。小鳥はタカ等の猛禽類狙われないように場所を移動しながら餌を食べることを上野先生が話されました。近くのキハダの枝に留まって実を食べる姿を、双眼鏡やスコープを使って観察しました。

霧ヶ谷湿原では、少数のカシラダカを見つけました。カシラダカはロシアから渡ってくる冬鳥ですが、ロシアでの開発が進み、繁殖地が減りつつあることを聞きました。

続いて田園に向かいます。刈り取りの終えた田んぼに餌を求めてやってくる鳥を観察します。ハシブトガラスやアトリの他に、少数の群れを発見しました、上野先生が確認をしたところ、今回のお目当ての1種のシラガホオジロだと判明しました。早朝、餌を食べたあとはすぐ山に戻りますが、雨天のためこの時間にも田園にいることや、近くを通りがかる人が少ないことも幸いだったそうです。今回の観察会では7羽のシラガホオジロが確認されました。参加者は、図鑑と実物で細部を確認しながら「見られて良かった」「スコープに入っているのぞうぞ」と、和気あいあいと観察を続けました。この他にも八幡高原の野鳥観察会では10年ぶりの確認となったミヤマガラスなど、充実した出会いがありました。

最後は尾崎谷湿原の溜め池に向かいました。まずは堤の端からそっと池を眺めました。鳥を驚かせないようにするためです。池の奥にはコガモの群れや、そこに混じっているカイツブリ、池から出ている杭の上に留まって羽づくろいを

しているカワウの姿を確認しました。

溜め池から戻り、今日の観察会での鳥合わせとまとめを行い、26種類の野鳥が確認されました。雨にも関わらず、色々な野鳥と出会えた参加者からは、たくさんの明るい笑顔が見られた野鳥観察会となりました。

[ありみつまさかず]



集合し、雨対策をしているところに姿を見せたオオマシコを観察する。



田園で観察。電線などに留まる個体を1羽ずつ観察する。



田園の上を旋回していたトビ。



最後に鳥合わせとまとめをする。26種類の野鳥が確認された。



見つけた野鳥を図鑑で解説する上野先生。解説しているのはシラガホオジロ。

### 【みなさんの印象に残った物】

「シラガホオジロ、キレンジャクを見る事ができた」「シラガホオジロの観察(4)」「たくさんの取りを教えてもらえた」「キレンジャク初めて見ました」「キレンジャクの群れを見られたこと(3)」「キレンジャク、ミヤマガラス、シラガホオジロ(4)」「雨降りでも多くの鳥が見られる(3)」

### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「26種と思ったより多く確認でき良かった」「雨が降ったが、たくさんの鳥を見る事ができて楽しかった(2)」「雨も気にならないくらい充実してました」「楽しかった」「美しい紅葉の中、今季初の鳥が見れた」「寒い中ありがとうございます」「雨にもかかわらず鳥が良く出ました」「木の実と野鳥の関わりが聞けてタメになりました」「今年モシラガホオジロが見られてよかった」「高原の自然と種々赤い実」「また来ます。晴れるといいですね」「勉強になることが多くとても楽しかったです」「素晴らしい会でした」「いろんな鳥をいっぱいみれてラッキー」



羽づくろいをするカワウ。水中へ潜ったカイツブリとは対照的に、こちらの事は気にしていない様子だった。

## 観 察 会 報 告

### ●かんじき作り

開催日時：2013年12月1日(日)10:00

講師：坂井健作

11月ではめずらしい積雪約40センチの中、5名の参加者が八幡高原センターに集まり、かんじき作りを行いました。今回の講師は八幡在住の坂井健作先生です。坂井先生はかんじき作りの技が高く評価され、2010年に「きたひろしまの達人」に認定されています。

まずはかんじき作りに使う道具の準備からです。かんじきに巻き付けるための8メートル以上のロープを2本用意します。ロープの長さを測って切る係や、両端がほつれないように、テープで止める係などを、参加者が分担して行いました。

かんじきの枠は、事前に坂井先生が用意してくださいました。枠には先生の山に自生しているミヤマガマズミの枝を用います。八幡では「わなぐし」と呼ばれ、薪などを束ねる際にも使われていたそうです。これをゆがいて柔らかくし、自作の型に入れて形を整え、両端を揃えて針金で止めたものと先生が話されました。

いよいよ枠にロープを巻き付けていきます。坂井先生に巻き付け方を教わりながら左足用のかんじきを作ります。使用中にロープがゆるまないよう、巻き付け方に色々な工夫がされており、参加者が実際に巻き付けて確認するたび、感心の声が上がりました。

作業の合間には、坂井先生から、昔は各家庭でかんじきを作っていたこと、ロープではなく、わらで縄をなっていたこと、家庭ごとに色々な巻き付け方があることなど、かんじき作りや八幡の冬の仕事の様子について、話してくれました。昔の暮らしの様子がわかり、とても興味深い話でした。

話をしながら作業を続けます。つま先の部分からかかとへ向けて巻き付けていき、再びつま先へと戻ると「おとこ結び」と呼ばれる方法でロープをしっかりと結びます。かんじき作りの中で特に難しいところで、先生に繰り返し実演していただきながら、ゆっくりと結んで完成させました。

続いて右足用のかんじきを作ります。完成させたかんじきを見て、手順を確かめながら自分

たちだけでロープを巻き付けていきました。早く作り終えた人が、他の人の作業をサポートするなど、終始賑やかな雰囲気でかんじき作りを行いました。

今日作ったかんじきで、ぜひ雪の上を歩いてみてください。と坂井先生の言葉で締めくくり、どこを歩こうかと考え、冬の楽しさが増えたかんじき作りとなりました。[ありみつまさかず]



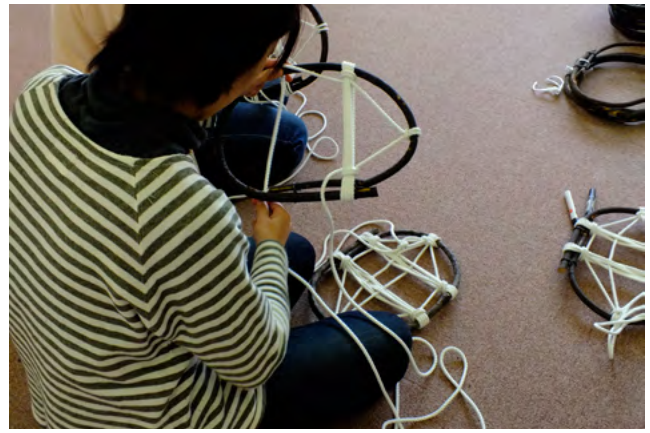
今回の講師は、はらっぱ一米やはらっぱ大根などでも馴染みの坂井先生。



当日は地元のテレビ局や雑誌の記者が取材に訪れた。



かんじきの枠にロープを巻き付けていく。まずは左足用から。



要所要所にロープがゆるまないよう工夫がされていることを実感しながら作業を続ける。



最後につま先を「おとこ結び」と呼ばれる方法で結ぶ。完成までもう一息。



完成したかんじきと記念撮影。お疲れ様でした。



続いて右足用のかんじきにとりかかる。先ほど作った左足用のものを参考にする。

**【みなさんの印象に残った物】**

「八幡では、かんじきは必需品だということ」「ロープの結び方がわかりました。とても良かったと思います」「お歳の人と話ができてなごやかになれた」「おとこ結び。結び方にも色々な方法があることを知りました」

**【参加したみなさんの感想（抜粋）】**

「結び方がとても合理的に考えられている」「古い時代のやり方がわかりました」「あこがれていた事で嬉しかった」「かんじきの型などの事前準備、ありがとうございました」

## 観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

**基本セット**：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳  
**作業セット**：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

### ●冬を生きる動物の生態

開催日時：2014年1月18日(土) 10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、双眼鏡、スノーシュー・かんじき  
定員数：30名  
参加費：一般=300円、賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
かんじきレンタル=400円

多い年だと1m以上の積雪がある時期です。雪の千町原を、動物の足跡や食痕などのフィールドサインを探してアニマルトラッキングをします。また、シベリアからやってきたツグミやキレンジャクなどの冬鳥や、その食べ物となるカンボクヤドリギなどの実も観察します。



※冬期の観察会は、大雪などの悪天候の場合、中止になる可能性があります。連絡がとれるよう、必ず事前に申し込みをお願いします。

### ●雪原のトレッキング

開催日時：2014年2月9日(日) 10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、スノーシュー・かんじき  
定員数：30名  
参加費：一般=300円、賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
かんじきレンタル=400円

雪で覆われた霧ヶ谷湿原で、どんな動物が見られるでしょうか。冬に活動する動物の食痕、足跡などのフィールドサインを探します。ユキクロカワゲラ・トビムシ・クモガタガンボ等、雪上で生活するユキムシも探してみましよう。

### ●早春のトレッキング

開催日時：2014年3月8日(土) 10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、双眼鏡  
定員数：30名  
参加費：一般=300円、賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料

春の兆しを見つけに行くトレッキングです。春を待つ植物や野鳥を見ながら歩きましょう。冬と春の両方の季節を感じることでできる機会です。雪が残っている場合はしっかりと歩ける準備をしてください。冬の間、雪の下を掘ったハタネズミのトンネルや、動物たちが残した糞も見つかることでしょう。

11月の八幡は例年にないほどの大雪となりました。近所の方からも「この時期にこんなに積もるのはめずらしい」と、驚いているようでした。自然館の周りの雪かきをしたり、来館された方と冬鳥の話するなど、一足早く訪れた冬を実感しました。今年も残り2週間、やり残したことはなかったか、引越し作業を終えた研究室で振り返っています。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先  
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

[staff@shizenkan.info](mailto:staff@shizenkan.info)